



デジタル教科書と教材の連携

デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議(第5回)

株式会社Libry 代表取締役CEO 後藤匠

後藤匠 (ごとうたくみ)

株式会社Libry 代表取締役 CEO

ICT CONNECT 21 EdTech推進SWGサブリーダー

千葉県船橋市生まれ。31歳。

東京工業大学社会工学科(計量経済学・統計学) 卒業

東京工業大学大学院 IM研技術経営(MOT)専攻 中退

小学5年生の時に、生まれた環境に左右されない「**平和な世界**」を志す。

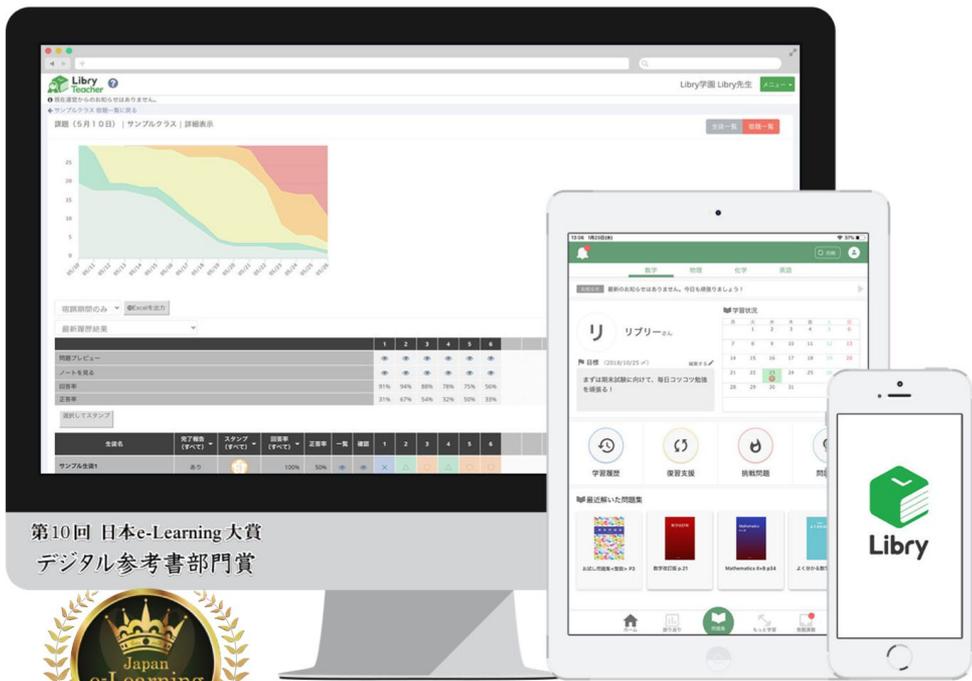
2012年に「**ひとりひとりが自分の可能性を最大限発揮できる社会を創る**」というビジョンを掲げ、大学院在学中に当社(前: forEst)を**学生起業**。

著書:「実践クラウドソーシング(インプレス R&D)」



「新型コロナウイルス感染症の実体経済への影響に関する集中ヒアリング」にて、EdTech業界代表として、安倍元首相等に状況の説明や政策提言をいたしました。

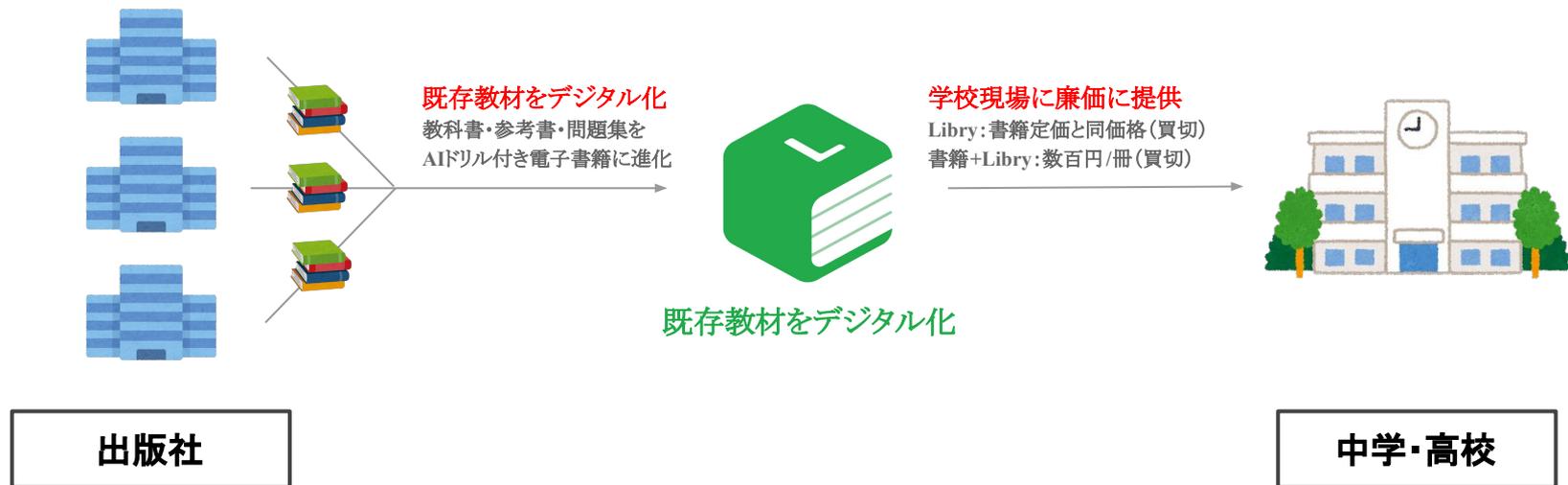
スマートに学べる問題集



第10回 日本e-Learning大賞
デジタル参考書部門賞



出版社と提携し、既存教材を全国の学校に提供



高校理数科目において、**教科書会社5社中4社**と提携
教科書以外の出版社とも提携し、**教科書と教材を連携**

■提携出版社

啓林館、東京書籍、第一学習社、実教出版
河合出版、学研プラス、学林舎、鉄緑会、さなる予備校等

高校を中心に全国 **500校以上** に提供(トライアル含)
全国の高校の10校に1校に相当

Libryデモ:「なめらかさ」に注目

動画



Libry:生徒用の学習ツール

これまでの勉強の仕方を大きく変えず、学習効率向上を目指す

電子書籍機能

サクサク書籍閲覧
しおり・ページジャンプ
拡大・縮小
書き込み
Webサイト閲覧(予定)

AIドリル機能

学習履歴保存
問題演習モード
ノート連携(写真)
類似問題出題
問題検索
復習支援ドリル
苦手克服ドリル
学習履歴可視化



Libry for Teacher:先生用の管理ツール

宿題管理業務等をデジタル化し、教員の業務負担を軽減

学習管理機能

宿題出題機能
宿題結果自動集計機能
フィードバック送信機能

先生に関するメリット

デジタル教科書や周辺教材の学習履歴を収集&可視化することにより、教員の**業務負荷は軽減**され、より**生徒のことを理解**できる。



デジタル教科書と同じサービスで教科書の問題の類題宿題として提示



宿題の結果・ノートの自動回収&自動集計
→**教員の働き方改革**



教科書→教材への学びの深化

- ・章末問題から演習問題へ
- ・Webサイトへのリンク
- ・苦手な傾向を分析



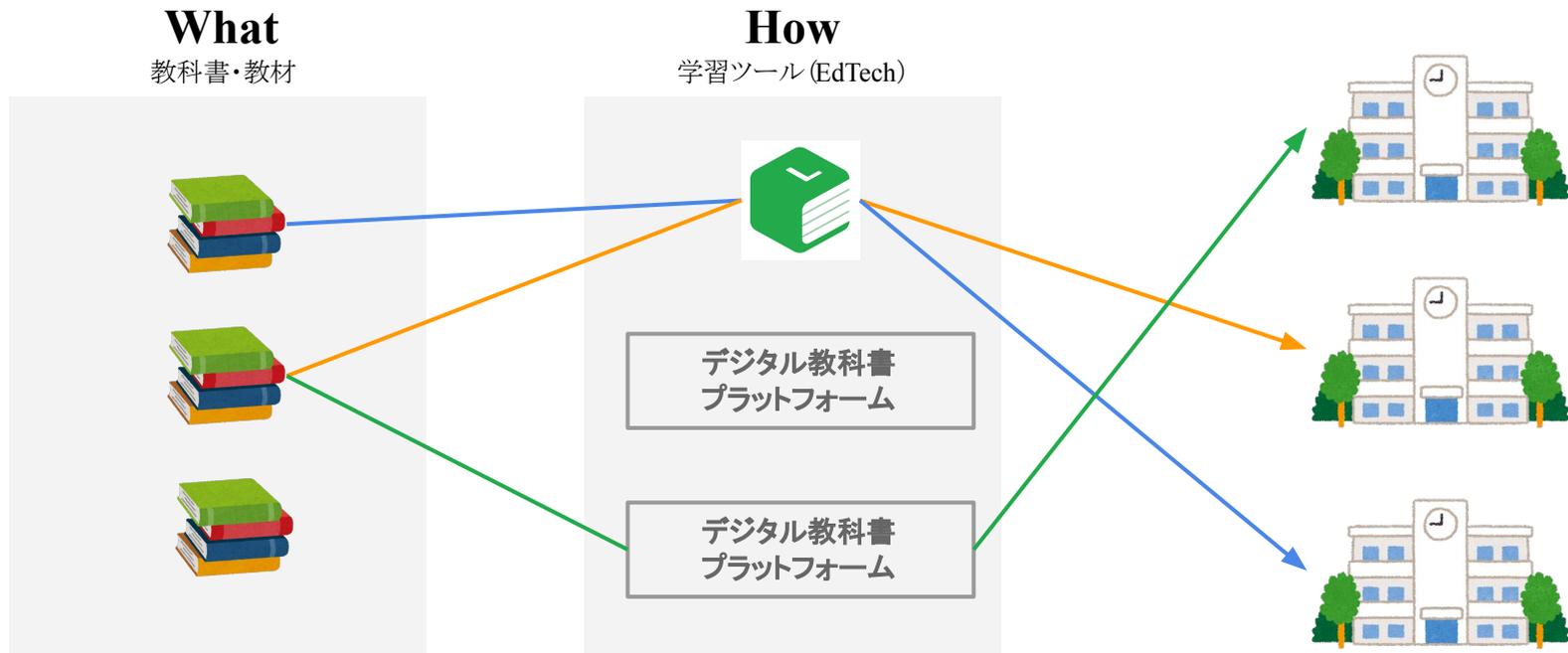
教材→教科書へ立ち返る

- ・演習問題から教科書紙面へ
- ・教科書をいつでも持ち歩ける状態にする



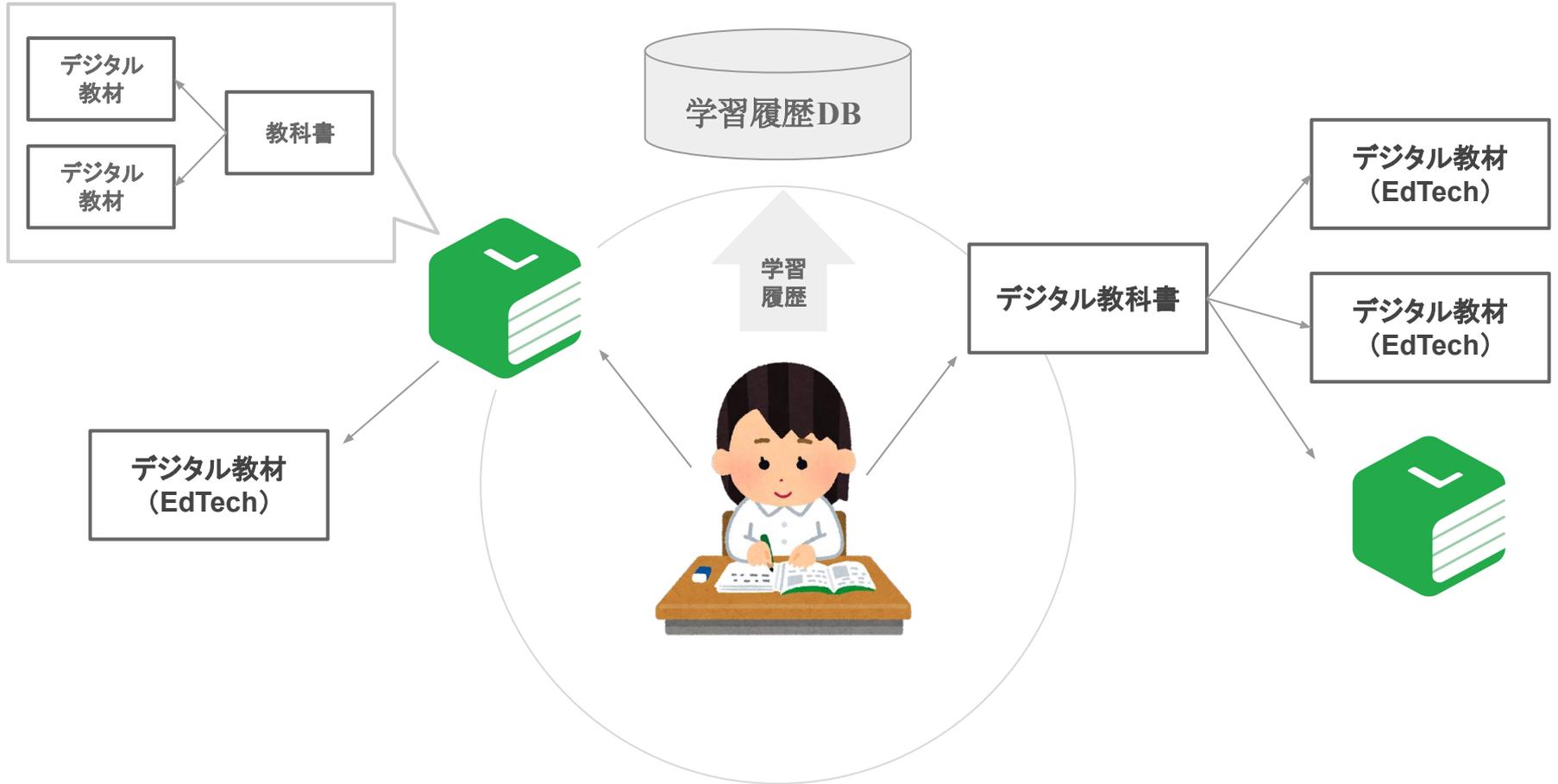
- ・教科書の章末問題の類似問題がここにあります
- ・クラスの子達はここが苦手みたいです

「What」と「How」のベストマッチ

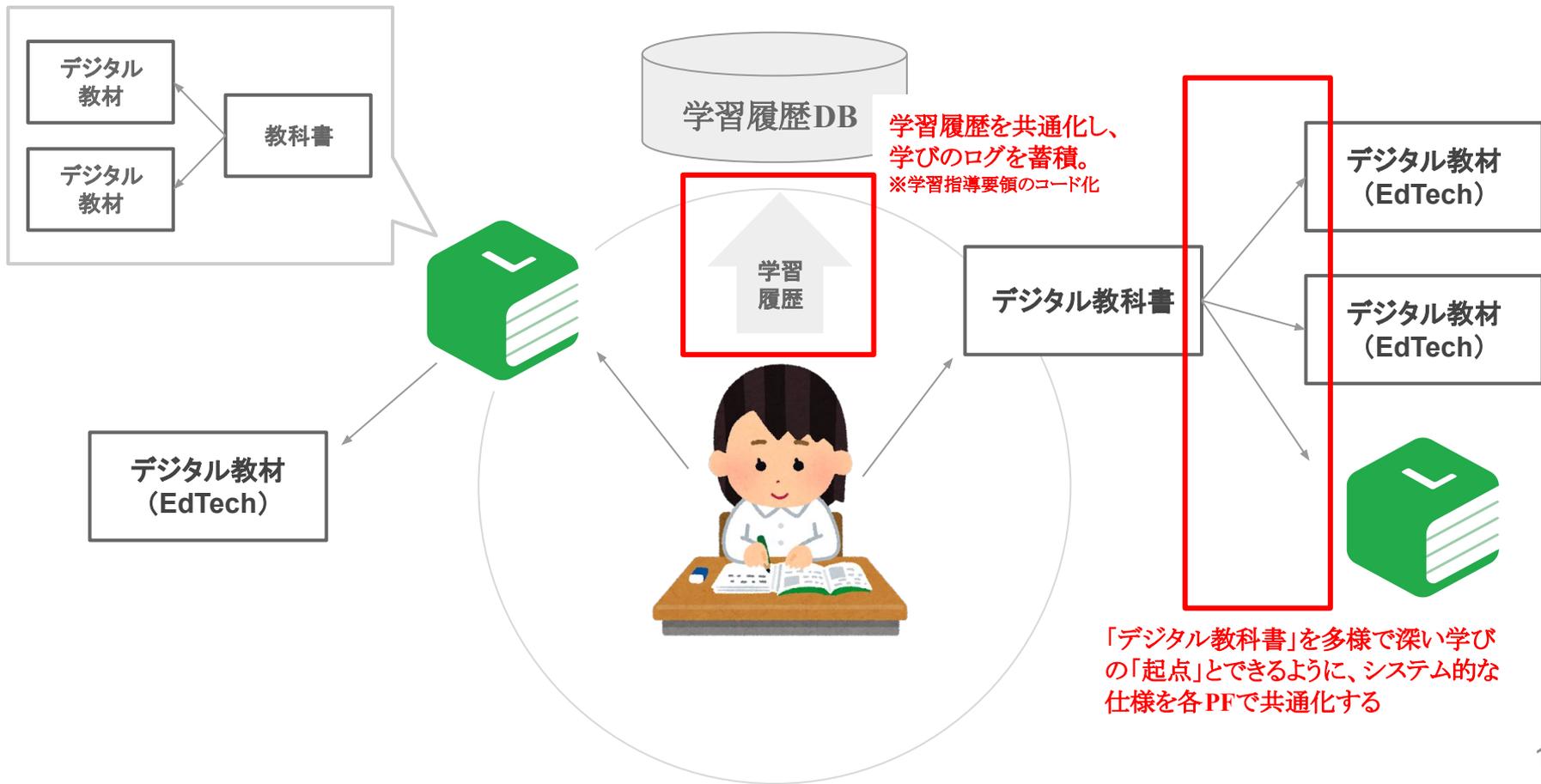


学校によって、**必要とされる教材や機能はそれぞれ異なる** はずです。
「何を学ぶか(What)」と「どう学ぶか(How)」が独立していて、
学校によって、**最適な組み合わせを選択できるような社会** になれば良いと考えています。

学習体験を「学習者中心」に設計すべき



学習体験を「学習者中心」に設計すべき



当社は、「GIGAスクール構想の実現」「コロナ禍」という、日本の学校教育の「変化の刻」に教科書や学校教育に深く関わる EdTech企業として居合わせられたことに **大きな使命感と責任感**を感じています。

2021年に情報端末が小中学校に入り、2025年頃には自治体の情報端末買い替えのタイミングが来ることとなります。そのタイミングで「日本は教育のデジタル化を進めて良かった」という成果を残さなければ、自治体からの端末予算は得られず、教育のデジタル化はブームとして終焉し、日本の教育は世界的に見ても大きく後退することとなります。私達は産官学連携して **2-3年で「成果」を残さなければなりません**。

日本の教育の中心は「学校教育」であり、学校教育の根幹を担うのは「教科書」です。
その「**教科書**」の**デジタル化の方向性**は、まさに **日本の教育のデジタル化の指針**になるといっても過言ではないと考えています。

だからこそ、子ども達によりよい学習環境を届けるためにも「**Society 5.0 にふさわしく**」かつ「**学校現場に適合する**」**デジタル教科書の方向性**が示されることを心から期待しています。

当社がそれに少しでもお力添えできたのであれば、幸いです。